

I 平成28年度の運営総括及び来期の課題

平成19年9月の開館から9年6か月が過ぎ、今年の9月で丸10年を迎えます。今日まで、述べ36万人を超える来館者が、白根児童センターを利用してくれました。平日の午前中や土日を中心に、乳幼児親子が多く訪れ、『リラックスカフェ』や『ちびっこ広場』、『作って遊ぼう』などの定例行事や、『ハロウィン』や『クリスマス会』、『ひな祭り』などの季節行事を楽しみに参加してくれる様子がみられました。また、午後からは、小学生が元気に児童センターに来館し、館内に賑やかな声が響きました。アリーナで、バスケットボールやバレーボール、サッカー、卓球、バドミントンなど、様々なスポーツで汗を流す姿が多く見られました。工作室ではジグソーパズルや塗り絵、自由工作のほか、ミニ凧作りを楽しむ小学生も多く、白根の伝統が子どもたちの意識の中に根付いていることを実感しました。夕方からは、中学生の来館も多く、アリーナでスポーツを楽しんだり、図書室や工作室で勉強に励む姿もありました。また、移動児童館で、近隣の保育園や幼稚園、学童クラブに出向き、カプラ遊びや音楽あそび、絵本ゲームを行いました。遊びを通して子どもたちの創造力を養い、思いやりの心や譲り合う気持ちを育ててきました。様々な行事に異学年が集う中、子ども同士で考え、行動をするよう促し、切磋琢磨しながらも成長する様を目にすることが出来ました。日々を児童センターで過ごす子どもたちを見守る中で、子どもたちの声に耳を傾け、時には叱咤激励をしながら、ともに歩みを進めてきました。また春になると、まだあどけなさが残る新小学1年生の子どもたちが元気に児童センターに駆け込んできます。社会人になってからも、時折立ち寄ってくれるかつての子どもたちの姿を見ると、長い年月の中で多くの子どもたちと出会い、子どもたちの成長に寄り添ってきたごく当たり前の日常が、児童センターの中で過ごす子どもたちにとって、かけがえのない時間として積み上げていっていることを実感します。これからも、利用者の声に耳を傾け、子どもたち、保護者の気持ちに寄り添い、誰もがほっとできる『居場所』として、地域の中に根付いた児童センターをめざしていきたいと思えます。

1. 乳幼児事業

(1) 総括

乳幼児連れの母親のみならず、父親の姿も多く見られました。また、常連として来館するたびに、子どもの成長を共に実感することが出来ました。南区の『子育てオーエンジャー☆みなみ』や『子育て安心ささえ隊3739』の方々と連携を取りながら、子育てをする母親の支援に努めてきました。また、講座・広場開催を通して、母親同士が情報共有できる仲間づくりにも焦点を当ててきました。

① ちびっこ広場

毎週土曜日11時半から行いました。絵本の読み聞かせや手遊び、スキンシップ遊び、体操、ミニ工作など、毎回、企画内容を変えて、親子で一緒に楽しんでいます。子どもの成長発見の場にもなります。ちびっこ広場を通して、ママ同士の情報交換の場になります。また、季節に応じた行事である『七夕おたのしみ会』、『ミニミニ運動会』、『ハロウィン』、『クリスマス会』、『ひなまつり』、『お楽しみ会』は大好評です。

② 作って遊ぼう

毎月2回、連続した日に行っています。幼児向けの簡単な工作を親子で楽しみながら取り組んでいます。出来上がった作品は、その場で遊んだ後、持ち帰っています。家庭では触れる機会が少ないはさみを使うなど、指先を使った内容を取り入れています。また、牛乳パック・食品のトレーなど身近にある素材を使って、家でも楽しめる工作も提案しています。

③ 保育園児・幼稚園児の交流会

7月の『七夕』にあかね保育園・カトリック幼稚園・白根保育園・そよ風保育園・月潟保育園の年中児が参加しました。また10月の『ハロウィン』では、『七夕』に参加した5園のほか、古川保育園・諏訪木保育園も加わり、計7園の年長児が参加しました。他園の子どもたちとグループを組んで、館内に用意されたゲームを楽しみました。グループ行動の中で、他園の子どもたちとの交流はもちろんのこと、思いやりの気持ちと自立心が育まれるなど、子どもたちの成長を垣間見ることが出来ました。

④ 移動児童館（カプラ遊び・英語で遊ぼう&音楽遊び）

児童館をより広く知ってもらうために移動児童館を行い、保育園・幼稚園を訪問しました。『カプラ遊び』は、フランス生まれの積み木を使って、『つくってあそぼう』をテーマに、船を作って子どもたちが乗ったり、タワーを作ってビー玉ころがしなど、様々な遊びを展開させて、カプラの楽しさを伝えてきました。『英語で遊ぼう&音楽遊び』は、音楽に合わせて英語で歌を歌ったり、英語の指示でゲームをしたり、楽しみながら英語に触れてきました。各園から喜んでもらうことができたので、今後も継続していきたいと思います。

⑤ 『白根コミュニティ協議会』との共催事業

9月、10月、12月に『ママのためのやすらぎタイム』を行いました。子育て中の母親が、ヨガや料理、フラワーアレンジメントを体験しました。保育付きの母子分離の事業で母親自身がリフレッシュすることと、母親同士の交流を目的にしています。「自分の時間をゆったり持つことで、家族や子どもに優しくなれた。」「ほかのママたちとおしゃべりができてよかった。」と、講座を終えたママたちの表情は明るくなっていました。

⑥ 『子育て安心ささえ隊3739』との共催事業

7月に『ママヨガ』の講座を母子分離で行いました。日頃子育てで疲れている体をリラックスさせたり、メンテナンスする方法を教えてもらいました。『子育て安心ささえ隊3739』の活動を通して、「子育て中の母親が元気になってもらいたい。」という思い

で実施しています。『地域で子育てを応援しています！！』をスローガンに、今年度も補助金をいただき実施しました。

⑦ 『子育てオーエンジャー☆みなみ』の方々との共催事業

児童センターで、5月、7月、3月の3回『ほっぺちゃんひろば』を開催しました。ハンドトリートメントや絵本読み聞かせ、ピアノ演奏を行いました。ハンドトリートメントは、リラックス効果もあり、とても好評でした。ピアノ演奏の間、子どもたちも、母親と一緒に静かにピアノに耳を傾けていました。多くの母親が訪れ、育児相談をしたり、母親同士がつながっていく様子がみられました。来年度も継続事業になります。

(2) 来期の課題

母親支援と親子のふれあいを重点に、地域とともに講座や広場、行事を執り行ってきました。休日を中心に、父親と幼児と一緒に来館する姿を多く目にします。行事や季節のイベントに、父親も一緒に参加する様子もあり、今後、さらに多くの父親が参加してくれるような行事内容にしていくとともに、父親も気軽に参加できるような講座の開催を考えていきたいと思えます。男性からの視線で子育ての意見交換の場を設けていきたいと思えます。

2. 小学生事業

(1) 総括

地域の課題から、塾や習い事に通えない子どもたち中心に学習支援に取り組み、安心して学ぶ機会を得ることができました。また、白根コミュニティ協議会から金銭面で協力していただくなど、幅広い事業内容で取り組むことができました。核家族化で共働きが多く、日中を安心安全に過ごせる場として、児童センターが子どもたちの『第二の我が家』のように過ごす姿が見られます。子どもたちの成長に寄り添い、地域の中で子どもたちが健やかに育つ『居場所づくり』をしていきたいと思えます。

① 自主クラブ活動

【ピアノ連弾クラブ】

ピアノ連弾クラブは6年目になりました。12月のラスペックホールでの音楽発表会を目標に、職員の指導の下、ピアノに触れて音楽を楽しむことができました。発表会が近づくと、自主的に練習に訪れる子どもも多くいて、年々難しい曲に挑戦してきました。200名を超える観客の中、ステージで全員がしっかり弾くことができたことは、達成感と自信につながりました。大きな目標に向かって、お互いを思いやりながら連弾する素晴らしさを体験させることができました。

【イングリッシュクラブ】

今年度も小学3年～6年生を対象に行いました。白根コミュニティ協議会から全面的

に支援をいただき執り行いました。3, 4年生と5, 6年生の2クラスに分けて募集をしたところ、あっという間に定員に達してしまいました。月に2回、講師の指導の下、テキストを使って英語の学習を行いました。英語に親しみながら、簡単な単語を使って話すことを目標にしました。2月に健康福祉センターで発表会を開き、英語で劇を行ったり、スピーチを発表しました。保護者やひまわりクラブ、地域の方々が多数見に来てくれました。保護者からも好評で、来年度も引き続き開催できるように計画していきたいと思います。

② 子ども会議

イベントを企画するときに、子どもたちに声をかけて、行事の内容を話し合っています。子どもたちの意見を尊重しながら内容を決めています。子ども目線の意見も多く出てきて、自分たちが楽しめる企画を話し合います。子どもたちの自主性と協調性が活かされる場になったと思います。

③ その他の行事

アリーナが開放されている期間、ほぼ毎月、『スポーツ大会』を開催しました。ドッジボール大会、ドッチビー大会、バスケットボール大会、野球大会などを開催しました。低学年、高学年、中高生と学年で分けて、子どもたちの希望の種目を行いました。チームプレーで仲間同士助け合ったり、全力で打ち込む様子がみられました。

季節の行事の『夕涼み会』、『なつまつり』、『ハロウィン』、『お正月お楽しみ会』、『しろねふゆまつり』も、子どもたちの意見を取り入れながら行いました。『レクダンスを楽しもう』や『クリスマス会』では、高齢者の方と触れ合う機会を設けて多世代交流を行いました。

(2) 来期の課題

毎日、沢山の小学生が来館し、様々な遊びを楽しんでいます。日々の子どもの様子を観察し、変化を見落とさないように、注意深く見守っていきたいと思います。また、日頃から保護者とのコミュニケーションをとることはもちろんのこと、地域の方々とも協力を仰ぎながら、多くの大人の目で子どもたちの成長を見守っていきます。小学校とも情報交換をしながら、連携を密にしていきたいと思います。

3. 中・高生事業

(1) 総括

中高生は、開館当時から長年児童センターを利用している子どもたちが多く、職員との信頼関係も強く、職員との会話を楽しむ様子も多く見られます。『中高生夕涼み会』や『スポーツ大会』、『アリーナをきれいにしよう』、『卒業を祝う会』などの行事では、多くの中高生が参加し、仲間との時間を楽しんでいました。また、中高生タイム（午後6時から午後7時）では、アリーナでスポーツを楽しんだり、定期テスト前には、

職員に勉強を教えてもらうこともありました。アリーナが中高生でいっぱいになるくらい、スポーツをすることが楽しみで訪れる子どもたちが多いのも児童センターの特徴だと思います。『なつまつり』、『小学生夕涼み会』など多くの行事に、ボランティアとして自主的に手伝ってくれる頼もしい姿も見られました。

(2) 来期の課題

アリーナが閉鎖している期間、体を動かす機会が少なくなります。また、利用できる部屋が制限されることもあり、中高生の『居場所作り』が課題になってきます。今取り組んでいる学習支援に力を入れていくほか、中高生タイムの時間を使って、中高生シアター、ダンスなどを取り入れるなど、できる限り子どもたちのニーズに応じていくことで、『居場所』としての役割を果たしていきたいと思います。

4. 地域との連携事業

①大風合戦協会との連携事業

毎年、白根大風の本新蝶組に協力していただき、児童センターとして白根子ども風合戦に参加しています。

②白根コミュニティ協議会との共催事業

- ・イブニングコンサート&クリスマスコンサート（前述）
- ・ママのやすらぎタイム（前述）
- ・しろねふゆまつりは、乳幼児親子から小中学生、近隣の方々の総勢611名が訪れました。遊び・工作コーナー、販売コーナー、展示コーナーのほか、おもちゃ病院やフードバンクなど、99名のボランティア団体の方々がブースのお手伝いをしてくださいました。

③白根地区社会福祉協議会との共催事業

- ・高齢者との多世代交流事業『レクダンスを楽しもう』
「白根健康サークル」の方々の企画で子どもたちとダンスをしたり、ゲームを楽しみました。

④ボランティアとの連携事業

- ・折り紙教室
毎月1回、季節に合わせた様々な折り紙の折り方を指導していただきます。
- ・なつまつり
地域からのボランティアのほか、市内の大学、高校からも多くの方々がボランティアとしてお手伝いいただきました。
- ・しろねふゆまつり～多数の団体が参加～（前述）